研修で
学校が
変わる

中堅教諭等資質向上研修④
特別支援教育ステップアップ研修② まとめ
学校司書研修（選択）

令和元年８月２０日（火）県立福祉人材研修センター

「子どもたちの望ましい行動を増やすポジティブ行動支援」

講師　田中　善大　氏（大阪樟蔭女子大学　准教授）

【研修のねらい】
■児童一人一人を大切にするための応用行動分析の基本的な考え方を理解し、子どもの行動の理解を深め、実践力の向上を図る。

ポジティブ行動支援の基礎

応用行動分析（ABA：Applied Behavior Analysis）

ABC分析を基本として考える
A:先行刺激（**A**ntecedent）
B:行動（**B**ehavior）
C:後続刺激（**C**onsequent stimulus）

「行動」に先立って存在し行動を引き出すきっかけとなる刺激
※レスポンデント行動（条件反射）

行動した結果、環境から与えられる応答（フィードバック）

分析

後続刺激「行動が増えていく場合：強化⬆ 強化刺激」
「行動が減っていく場合：弱化⬇ 弱化刺激」
「行動に対する応答がない場合➡消去」
※後続刺激によって直接的な影響を受け、増えたり減ったりする行動
➡オペラント行動

行動の分類
★増やしたい、増えてほしい行動
（適切な行動　望ましい行動）
★減らしたい、減ってほしい行動
（不適切な行動　困った行動）
★今のままでいい行動

➡ **行動データ**に基づく意思決定
⬇
望ましい行動が増える
⬇
問題行動が減る

望ましい行動が増える➡問題行動が減る
「×」ではなく**「○」**に注目する➡その子の**「○」の基準**を見つける
何ができているか
何と声をかけるか
「できて当たり前」ではない

ほめ方のポイント（B➡C）
具体的な行動をほめる➡どの行動がほめられたのか理解しやすい
➡集団に対しては他児への指示になる
ほめるところがない　➡当たり前のことを当たり前にやっている時にほめる
すぐにほめる➡60秒以内にほめる
よくない行動はほめない

プチ成功体験を増やしていく

問題行動には
問題行動に代わる適切な行動（望ましい行動、してほしい行動）
適切な行動を具体的に伝える「～しない」ではなく**「～します」**
適切な行動に対して積極的に**ポジティブなフィードバック**

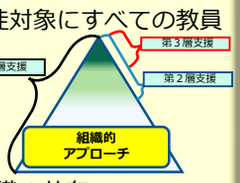
ポジティブ行動支援
「○」の行動に注目し、「○」の行動を増やす
児童生徒の成功と達成を重視➡成功体験を支える
予防的な対応　予防的：困った行動が起こる前の対応

学校全体で取り組むポジティブ行動支援

SWPBS：学校全体（**S**chool **W**ide）ポジティブ(**P**ositive)
行動(**B**ehavior)支援(**S**upport)

児童生徒が主体的・自発的に取り組む
児童生徒に責任を持たせる・移行する

支援構造
第1層支援：**学級・学校規模**　すべての児童生徒対象にすべての教員の一貫した指導
第2層支援：**配慮の必要な一部の児童生徒**
第3層支援：**特別な支援を必要とする個人**



期待される効果　支援・配慮（Before ＞ After）
通常対応　（Before ＜ After）

実際　1　校内の現状分析と教職員間での課題意識の共有
2　マトリックス図の作成
3　行動指導計画表の作成と実際の計画

各取組の流れ
取組前の記録 ➡ 取組の開始・広報 ➡ 実施（称賛など）・記録
➡フィードバック・称賛

学校全体で取り組むポジティブ行動支援は

教師の**「こんな子どもに育ってほしい」**
子どもたちの**「こんな自分になりたい」**
その**想いを形にする**実践

研修参加者の感想
■望ましい行動を増やすことができれば、自然と問題行動が減るということがとても分かりやすく理解できた。日頃、児童への対応に苦労している職員も多いので、校内全体に発信していきたい。
■特別支援教育主任として、支援の必要な児童の何を変えたいのかを明確にして、どうほめていくかを支援会議で具体的に提案したい。
■職員に今回のレジュメを配布し、ポジティブ行動支援の考え方を伝える。校内支援会議の際に、望ましい行動を強化するという視点で話し合いが進められるように配慮したい。